

# M I O S U J I みおすじ

第16号

発行 愛知県立三谷水産高等学校同窓会  
〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町水神通2-1  
TEL.0533-69-2265 FAX.0533-67-7699

## 会長職約三年を経過の記

同窓会長 鎌田 篤司 昭和42年漁業科卒



平成17年1月3日(月)、三谷水高同窓会総会において、伝統ある三谷水高同窓会長に推されて以来、早いもので丸三年が過ぎようとしています。この間、私のような未熟者を、佐藤・高橋両副会長を始めとする現役員、それから伊藤校長や学校職員の方々、PTA及

びPTAOB会、同窓会OBの諸先輩、そして何と云っても七千二百有余名の全同窓会会員の皆様のご協力のお陰を持ちまして、何とか職務を全うする事が出来ました。まずは、同窓会会報紙上で誠に恐縮ではありますが、お礼を申し上げさせていただきます。

過日、愛大の黒柳副学長の「徒然草」の講義を受ける機会がありました。その「徒然草」の一節に、「命あるものを見るに、人ばかり久しきはなし。かげろうの夕べを待ち、夏の蟬の春秋を知らぬもあるぞかし。つくづくと一年を暮らすほどだにも、こよなうのどけしや。飽かず、惜しと思はば、千年を過ごすとも一夜の夢の心地こそせめ。」これを黒柳先生は、「人間程、長生きするものはない。かげろうの命は三時間余り、夏の蟬は一週間程の命だから春も秋も知らずに死んでゆく。一年でも満足して暮らす事が出来ればそれ程素晴らしい事はない。それを常に満足する事のない人生を送ってれば、千年生きても、一夜の夢のごとし。」と解説をされました。

同窓会長として、三年間も充実した生き方が出来た私は、何と幸せ者だろうと、つくづく思うこの頃であります。

本年の2月と3月の、同窓会入会式と卒業式に、同窓会長として出席をさせて頂きました。実は、本年の本科生の卒業生は、昭和生まれ最後の

卒業生でした。昭和23年に生まれ、昭和39年4月6日(月)に三谷水高に入学し、昭和42年3月3日(金)に卒業した、昭和という時代の真っ只中に生まれ育った私にとって、本年度より三谷水高の本科生がすべて平成生まれになった事は、時代の流れとはいえ、誠に感慨深いものがあります。

しかし、これからの三谷水高を考えると、感慨に浸ってばかりはおられません。全国の水産学校を取り巻く環境は、決して順風満帆とは言えません。それは、私共の母校である三谷水高についても言えます。そのような事もあり、地元選出の鈴木克昌・杉田元司両代議士や大竹正人県議にも本校についてのご理解を頂くと云う事もあり、同窓会総会に出席をお願いしております。これらにより、国・県とのパイプを太くしておる所存です。この事により、必ずや私共の母校三谷水高が、日本の水産業や地元産業界等へ、充分貢献の出来る実業高校として、安定的に発展出来ることになるかと信じております。また、これらの事について、母校のサポートをする事が同窓会に課せられた大きな仕事だと考えております。今後も、三谷水高の発展を推進するには、全同窓会会員の皆様の変わらぬ母校愛を大いに期待する所であります。

来年1月3日(木)に、例年のごとく「ホテル竹島」において、三谷水高の同窓会総会と懇親会を開催致します。本年度の幹事(昭和57年卒)の諸君は、例年にも増して張り切って懇親会の企画を考えてくれているようです。同窓会会員の皆様、多くの恩師も交えて、青春の熱き思いを私共と一緒に語り合おうではありませんか。

同窓会会員多数のご出席を期待して、同窓会長としての挨拶とさせて頂きます。



▲校長、前PTA会長と共に愛知丸出航式にて